

折に触れ 四字熟語

NO. 14 『鞠躬尽瘁』 きくきゅう じんすい

< 意味 > 一生懸命、身も心も勞し命を賭けて国のために力を尽くすこと。心身を捧げ尽くして骨折り努力すること。

< 出典 > 諸葛亮「後出師表」

最終行『臣鞠躬尽力死而後已 至於成敗利鈍非臣之明所能逆觀成』

読み下し：『臣、鞠躬して尽力し、死して後已まん。成敗利鈍に至りては、臣の明の能く逆觀する所にあらざるなり。』

通 釈： 陛下の臣下である私は、心身を勞して国家にお仕えし、死ぬまで全力を尽くして働きます。この先成功するか失敗するか、幸運に遭うか不運に遭うかは、私の知恵ではあらかじめ予測することはできません。ですから、全力で取り組めば勝利を手にするかもしれません。

一 言： 為政者シリーズその2

鞠躬は身を曲げ丸めて、敬いつつしむさまで、「きくきゅう」とも読みます。尽瘁は力を尽くして努力すること。上記出典では「鞠躬尽力」となっていますが、「鞠躬尽瘁」は四字熟語辞典によれば「後出師表」が出典とされています。なお、「鞠躬尽力」の四字熟語もあります。

漢字学者の阿辻哲次氏は、この「鞠躬」の部分に号を付けています。ちなみに、私はこの熟語を知ったとき、すぐに民進党の長妻昭さんのことを思い浮かべました。そこで、1年くらい前でしょうか、長妻さんにメールしたとき、敬意を表する意味を込めて出典を付した上で宛名を「長妻尽瘁」殿としました。しかし、残念ながら長妻さんからは反応は全くありませんでした。号を考えるような歳でもなく、飾るようなことはしない方ですから当然ですね。

参照文献：三省堂「四字熟語辞典」 漢検「四字熟語辞典」